



そば栽培のポイント

< 6つの栽培ポイント >

- 1 そばは痩せた土地でもある程度良好に生育したり、生育期間の短さから、歴史的には開拓や飢饉の際の救荒作物の1つとして利用された側面がありますが、**そばの健全な生育 = 収量の高位安定化を図るためには適正な栽培管理が必要です!****
- 2 そばは湿害にきわめて弱い作物。特に発芽時等、生育初期の湿害は、その後の生育や収量に著しい悪影響を及ぼします。特に水田地で作付けする場合は**排水対策を徹底しましょう!****
- 3 そばは訪花昆虫を介して他個体と交配する他家受粉作物。栽培地域内ではできるだけ同一品種を栽培し、交雑を避けるとともに、品種本来の特性を活かしたそばを安定的に収穫するために、**種子更新を行いましょ!****
- 4 省力化と省略化は全く別。中耕・培土は、雑草発生の抑制、土壌の通気性の改善、排水性の向上、倒伏の防止や雑草防除にもつながります。**必要な管理作業は省略せず実施しましょう!****
- 5 そばの**収穫は適期刈取が重要**。そばは、実の成熟が不揃いのため、収穫時期の判定が難しいですが、**コンバインの場合、子実の黒化率が90%を超えたら収穫適期と判断しましょう!****
- 6 収穫後の取り扱いでそばの香りのよしあしが決定。水分が高いとカビの発生を招くおそれがある一方、乾燥させすぎた場合は風味が低下し、そばの流通取引の評価に大きく影響する場合がありますので、**適切な水分調整を図るよう注意してください!****

そばの栽培暦

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
北海道	秋そば (夏播きそば)				播種	開花	収穫				
本州 (長野)	夏そば (春播きそば)		播種	開花	収穫						
	秋そば (夏播きそば)					播種	開花	収穫			



大規模共同乾燥調製施設

ここに紹介します留意事項は、そばを栽培する際に特に留意すべき内容を列記したものです。また、栽培方法によっては該当しない内容も含まれます。

実際の栽培にあたっては、地域のJAや普及指導センター等に問合せいただき、ほ場条件や栽培品種に適した施肥設計、栽培方法等に基づき栽培してください。

ほ場準備

<ほ場選定>

- ・ そばは①生育初期の湿害にきわめて弱く、②訪花昆虫により他個体と交配する他家受粉性であるという特有の性質をふまえたほ場の選定が重要です。

対策のポイント

- ✓ 排水不良のほ場では作付けしない。
- ✓ 栽培品種本来の特性を活かした安定多収を得るためには、自然交雑が発生しないよう、**周辺に他品種のそばの作付けがないかを確認**した上でのほ場の選定が重要。

<排水対策>

- ・ そばは生育初期の湿害にきわめて弱いため、特に水田で栽培する場合は排水対策が重要です。

対策のポイント

- ✓ 水田転換畑では、**暗渠や明渠の設置により排水**を促進。
- ✓ 透水性・通気性を高めるため、**心土破碎を実施**。
- ✓ 転換畑では、地下水位を40～50cm以下とし、地表水が半日以内に排除できるようにする。

<土づくり>

- ・ 生育と収量を確保するためには、土づくりの継続が重要。土壌が乾燥すると、腐植（有機物）が消耗して地力が低下しやすくなります。

対策のポイント

- ✓ **堆肥や土壌改良材を散布する場合は、播種1週間以上前に行う。**
- ✓ 土壌診断に基づき、**石灰資材の投入等により、土壌酸度をpH6.0程度に矯正。**
 - ※ 施用量については、**土壌診断を行った上で地域・土壌条件や栽培品種に合わせた適正量を施用**すること。

<耕起・整地>

- ・ ほ場に大きな土塊が多いと、出芽不良になります。
- ・ 反対に、細かな土塊が多すぎると、降雨後に土壌表面が膜状に固くなり、出芽率が低下します。

対策のポイント

- ✓ 土壌物理性の改善や雑草・前作の残渣等の有機物を土壌にすき込むため、**プラウやロータリーを使用して耕起。**
- ✓ **耕起深度は15～20cm**を目安に耕起。
- ✓ 播種深度を均一にして発芽を揃えるため、ほ場は均平に整地。

播 種

<播種準備>

- ・ そばは訪花昆虫を介して他個体と交配されて実を結ぶ他家受粉作物であるため、自然交雑しやすく、栽培地域内では同一品種を栽培することが望ましいです。

対策のポイント

- ✓ 品種本来の特性を活かした安定多収を得るためには、**計画的に種子更新を実施**。

<播種>

- ・ 適期に播種しない場合、早播きでは過繁茂になり倒伏しやすくなり、秋そばの場合、遅すぎると初霜にあう危険性があります。

対策のポイント

- ・ 地域条件・品種特性に応じて、**適期に適量を適正な深さに播種**。
- ✓ そばは霜に弱いため、秋そばの場合、初霜の70～80日前の時期を適期として播種。
- ✓ 慣行栽培（60cm畦、条播き）の場合の**播種量の目安は10a当たり5kg程度**。

<病害虫防除>

- ・ そばは病害虫の少ない作物ですが、生育初期のヨトウムシの食害などに注意してください。

対策のポイント

- ✓ そばは虫媒性の他家受粉植物です。**隣接ほ場の他の作物の防除による薬剤飛散で訪花昆虫に影響が出ないように注意**してください。
- ✓ 農薬の利用に当たっては、必ず登録農薬による散布を行うとともに、**開花期間中の薬剤散布は訪花昆虫に影響があるので散布時期、散布量には十分注意**してください。

<雑草防除>

- ・ そばの初期生育を促進することによって、雑草よりもそばが早く生長し、新たな雑草の発生抑制に有効です。

対策のポイント

- ✓ 播種直前耕起や排水対策の徹底のほか、碎土率を高めるなど苗立ち数の確保と初期生育を確保してください。

<中耕・培土>

- ・ 中耕・培土は、雑草発生の抑制、土壌の通気性の改善、排水性の向上、倒伏の防止に非常に有効です。

対策のポイント

- ✓ 条間が広い場合、**開花～着蕾期に中耕を実施**してください。**培土の高さは10cm程度**です。

防 除

中耕・培土

<収穫>

- ・ そばは実の成熟が不揃いのため、収穫適期の判定が難しい作物です。完全に成熟してからの収穫では脱粒が増加し品質も低下します。

対策のポイント

- ✓ 完全に成熟するのを待っていると収穫作業等による脱粒が増加することから、**子実の黒化率が70%を超えたら収穫適期**と判断します。
- ✓ コンバインによる収穫の場合、追熟が期待できないことや作業効率の観点から、**子実の黒化率が90%以上、茎葉水分が80%程度に乾燥が進んだ時期**に行いますが、倒伏や脱粒被害が予想される場合は早めに刈り取ります。
- ✓ コンバイン収穫では、茎葉がつまらぬよう、刈取は低速、低回転で収穫するとともに、土や小石が混ざらぬよう、できるだけ高刈りします。
- ✓ 早刈りを行う場合は、茎葉の水分が高いことから、コンバインがつまらぬよう特に注意してください。

<乾燥・調製>

- ・ 収穫後、高水分状態で長時間放置すると風味が低下するため、できるだけ早く乾燥・調製作業を行います。

対策のポイント

- ✓ 過乾燥や水分過多ではそばの香りが劣るので、静置式乾燥機を用いる場合は、**送風温度を30℃以下とし、子実水分は16%程度を目安**とします。また、**水分むらを無くすため、1～2回攪拌**します。
- ✓ 乾燥後は、砂礫、未熟粒、茎等の除去を行った後、粒選別、さらに糲すり機等を使用しガクを除去します。

<他作物への混入防止>

- ・ そばの連作は収量の低下を招く要因です。そのため、うまく、輪作体系をに組み込むことが収量確保に有効ですが、アレルギーの問題から、他の農産物にそばの子実が混入しないよう注意してください（特に子実の色、形態が近い麦への混入に注意）。

対策のポイント

- ✓ そばとその他の農産物の収穫・乾燥調製の機械が同一である場合は、混入防止のため、細部までの清掃を徹底してください。
- ✓ 前年に栽培したそばのこぼれ種子が生育する危険性があることから、**そばと麦の交互作を行わない**でください。

【応用編】実用化されている省力栽培技術

＜耕うん同時畦立て播種栽培＞

- ・ アップカットロータリーを用いて、耕うん・畦立て・播種を同時に行う技術です。
- ・ 畦立てにより湿害を軽減できるとともに、耕うん・畦立て・播種を一工程で行うため、省力化ができます。

技術のポイント

- ✓ アップカットロータリーの爪を、畦を作りたい方向に揃えて取り付け耕うんすることで畦を設置。畦の高さは均平板の高さで調整。

上記以外にも、省力栽培や高収量のための技術が開発・実用化されています。導入に関心のある方は、地域のJAや普及指導センター等に問合せください。

＜参考資料＞

- (独) 農研機構・九州沖縄農業研究センター「ソバ春まき栽培マニュアル」